

2005年度技術発表会アンケート集計表

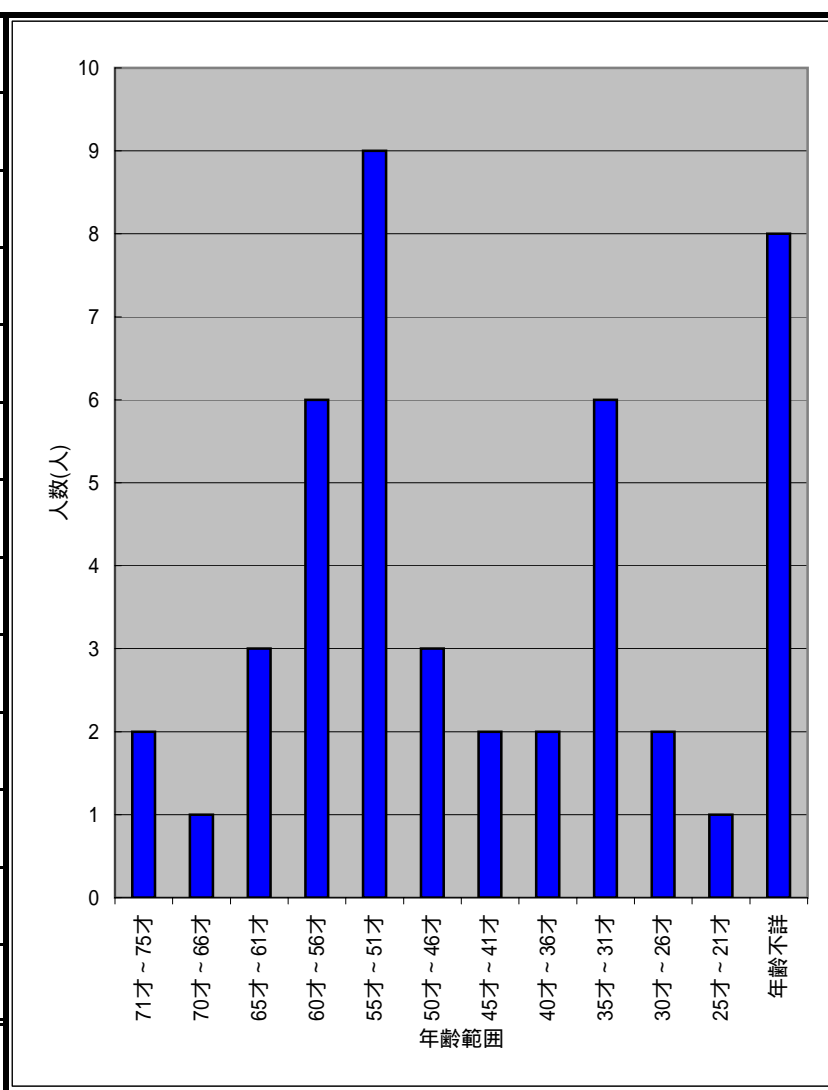
参加人数 84名	アンケート回収人数 45名
-----------------	----------------------

アンケートの回収率(54%)

区分	回答した人数	備考
官庁・公団・地方公共団体	11	
大学等教育機関	2	大学でアルバイト1名
電力・ガス・鉄道・通信	1	
総合・専門建設業	4	
設計コンサルタント	12	
その他	12	自営業(紙商)・農協・高知市消防団(自営)・自主防災会(元公務員)・主婦・流通業
無回答	3	
計	45	

アンケート回答者の年齢構成

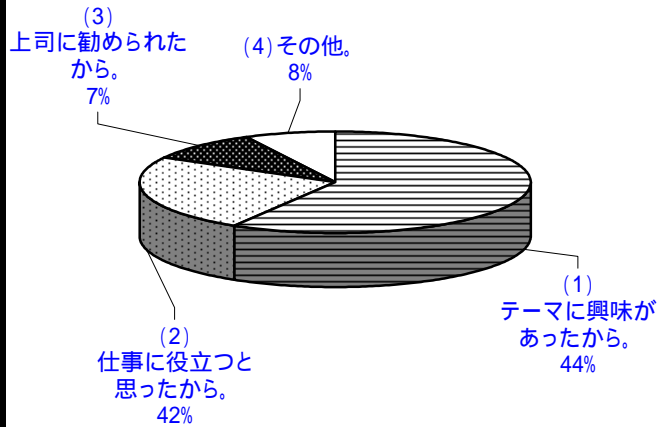
年齢範囲	人数
71才～75才	2
70才～66才	1
65才～61才	3
60才～56才	6
55才～51才	9
50才～46才	3
45才～41才	2
40才～36才	2
35才～31才	6
30才～26才	2
25才～21才	1
年齢不詳	8
計	45



2006年度技術発表会アンケート集計表

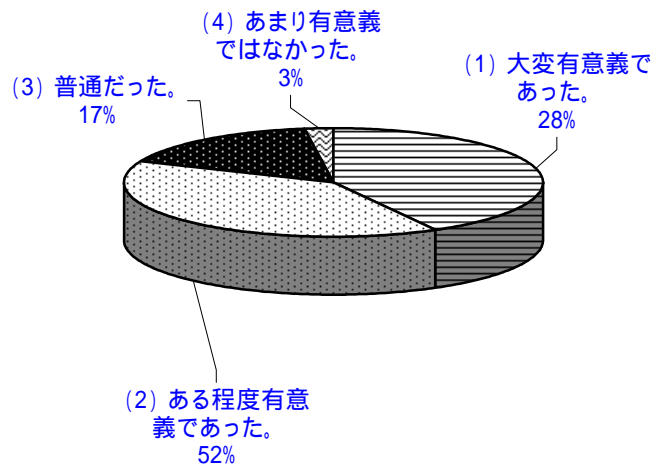
Q1. 参加した理由は何ですか？（複数回答可）

(1) テーマに興味があったから。	31
(2) 仕事に役立つと思ったから。	13
(3) 上司に勧められたから。	5
(4) その他。	4



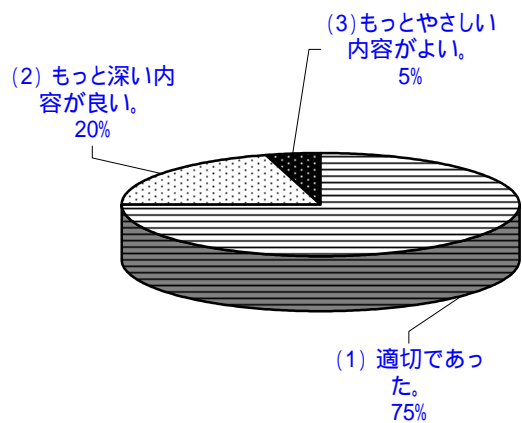
Q2. プログラムの内容は如何でしたか？

(1) 大変有意義であった。(5点)	18
(2) ある程度有意義であった。(4点)	17
(3) 普通だった。(3点)	7
(4) あまり有意義ではなかった。(2点)	1
(5) かなりつまなく、ためにならない。(1点)	0
(6) その他。	0



Q3. プログラムの難易度は如何でしたか？

(1) 適切であった。	33
(2) もっと深い内容が良い。	9
(3) もっとやさしい内容がよい。	2
(4) その他。	0



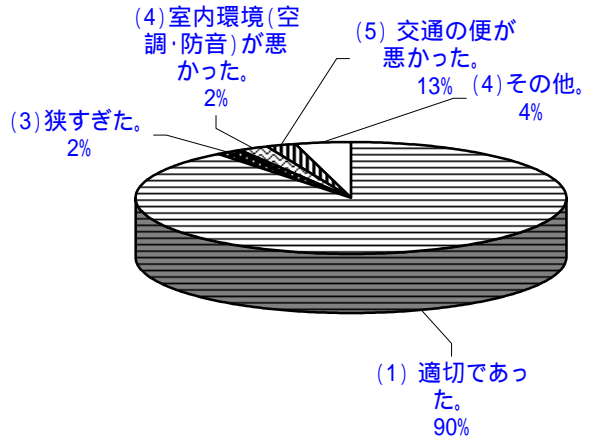
2006年度技術発表会アンケート集計表

Q4. 講師の説明は分りやすいものでしたか？		
(1) 大変面白く分りやすかった。(5点)	15	<p style="font-size: small;">(1) 大変面白く分りやすかった。 31%</p> <p style="font-size: small;">(2) ある程度面白く、理解できた。 35%</p> <p style="font-size: small;">(3) 説明は普通だった。 31%</p> <p style="font-size: small;">(4) あまり面白くなく、多少聞きづらかった 3%</p>
(2) ある程度面白く、理解できた。(4点)	18	
(3) 説明は普通だった。(3点)	10	
(4) あまり面白くなく、多少聞きづらかった(2点)	0	
(5) かなりつまならしく、内容が分らなかつた。(1点)	0	
(4) その他。	2	
Q5. プログラムの所要時間は適切でしたか？		
(1) 適切であった。	23	<p style="font-size: small;">(1) 適切であった。 51%</p> <p style="font-size: small;">(2) もっと長いほうがよい。 33%</p> <p style="font-size: small;">(3) もっと短い方がよい。 9%</p> <p style="font-size: small;">(4) その他。 7%</p>
(2) もっと長いほうがよい。	15	
(3) もっと短いほうがよい。	4	
(4) その他。	3	
Q6. 使用されたパワーポイント・OHP等の機材やテキスト等の教材は適切でしたか？		
(1) 適切であった。	38	<p style="font-size: small;">(1) 適切であった。 89%</p> <p style="font-size: small;">(2) 機材や教材の使用はなかつた。 2%</p> <p style="font-size: small;">(3) 不適切であった。 9%</p>
(2) 機材や教材の使用はなかつた。	1	
(3) 不適切であった。	4	

2006年度技術発表会アンケート集計表

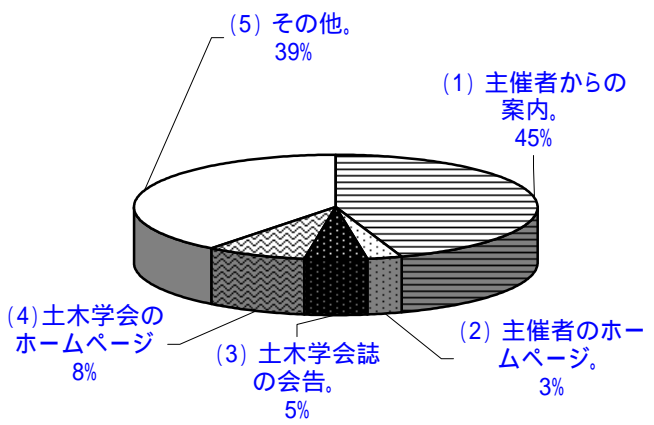
Q7.会場は適切でしたか？

(1) 適切であった。	42
(2) 広すぎた。	0
(3) 狭すぎた。	1
(4) 室内環境（空調・防音）が悪かった。	1
(5) 交通の便が悪かった。	1
(4) その他。	2



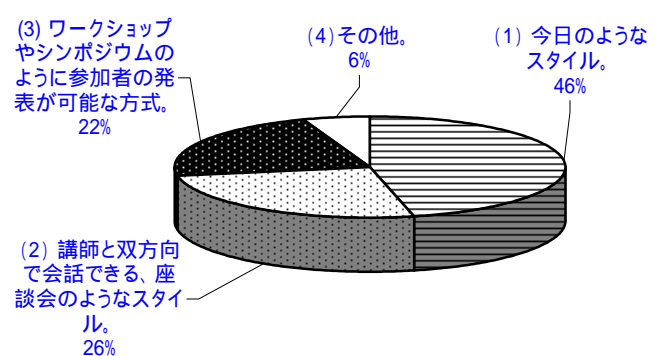
Q8.本日のプログラムが実施される事を何でしりましたか？(複数回答可)

(1) 主催者からの案内。	17
(2) 主催者のホームページ。	1
(3) 土木学会誌の会告。	2
(4) 土木学会のホームページ	3
(5) その他。	15



Q9.どの様な形態のプログラムが、継続教育にふさわしいとお考えですか？(複数回答可)

(1) 今日のようなスタイル。	25
(2) 講師と双方向で会話できる、座談会のようなスタイル。	14
(3) ワークショップやシンポジウムのように参加者の発表が可能な方式。	12
(4) その他。	3



2006年度技術発表会アンケート集計表

Q10. 本講習会の参加費はどなたが負担しましたか？

(1) 受講者本人。	13	<p>(1) 受講者本人。 57%</p> <p>(2) 受講者の所属する組織。 26%</p> <p>(3) その他。 17%</p>
(2) 受講者の所属する組織。	6	
(3) その他。	4	

Q11 今日と同様のプログラムが開催されるとしたら、同僚や部下に受講を薦めますか？

(1) 勧める。	29	<p>(1) 勧める。 65%</p> <p>(2) 勧めない。 5%</p> <p>(3) 分らない。 23%</p> <p>(4) その他。 7%</p>
(2) 勧めない。	2	
(3) 分らない。	10	
(4) その他。	3	

2006年度技術発表会アンケート集計表

その他の欄等に記入された内容

Q1 関連	自己ケンサン(自己満足) 吉川先生の案内メールにて 吉川先生のおさそい。 主催者に誘われた。
Q3 関連	回数を増す毎にもっとランクを上げると良い。
Q4 関連	詰めすぎと思う。 読みあげるだけで面白くなかった。
Q5 関連	質問時間がほしい。 余裕があると良いと思う。 1題45～60Mとし、1回当たり2～3題にしては。 演目を減らし1人当たり長くして欲しい。 中身が多すぎ。 Q3に関連して時間を長くしてもらいたい。 1人30分～40分 質問・討論の時間があれば良いのでは。
Q6 関連	資料ともに見えない。 テキストが見にくい。 申し少し明るい方が見やすい。ペーパーの字(後で見るのにはキビしい。)が小さいので、1枚当り2ページぐらいでお願いしたいです。
Q7 関連	資料ともに見えない。 テキストが見にくい。 コーヒー、よかった。 ケーキが出たのは初めて。 高知市内であれば、なお良かったのではないかな。
Q8 関連	上司より 知人から 新聞 野市町の回覧 高知市防災対策課からの連絡。
Q9 関連	質問時間をもっと取ってほしい。 せめて質疑の時間が欲しいのでは？発言したい方がいたので。 委員会等 発表者の独断で説明している部分が目につく。例えば高知市中央部は堤防があるから津波の心配がないように言われたが、堤防は破壊されない保障はない。(研究してほしい)(県土木部談)
Q10 関連	無料でした。 費用がいるのは知らない。
Q11 関連	同僚、手下がいない。 今日、教えていただいた内容は報告させていただきます。 単語をパクらせていただくかも知れません。

2006年度技術発表会アンケート集計表

その他の欄等に記入された内容

自由意見の欄

いただいたパワーポイントの資料の文字が小さく、高齢者は見難いのでは。

できれば、質問等をうけつける時間をもうけて頂き、その場で解決してほしい。後からといわれても、申し訳ないが、興味、関心がうすれている様な気がします。せっかく集まっているので、もう少し、時間をゆっくりとって、ゆっくり発表をし、十分な討議ができる様にしてほしい。

おもしろかったです。

吉川先生へ 毎回のご案内ありがとうございます。地域の自主防災に役立てたいと思います。ありがとうございました。

もう少し質問や討論する時間があると良い。

時間に余裕がない。

中身が多すぎ。

四国内での開催を多くして欲しい。

ローカル色の強いものを希望。

ありがとうございました。野市はいいですね。

地震予知の話(色々な説)も聞きたい気がする。

来年も参加したいと思います。ありがとうございました。

地震の発生を早くcatchし、その対応を考える。Driverが地震の発生を知っている人と知らない人との違いが事故につながるとか。

須内さんはとても上手で聞きやすかった(内容を自分のものになっている)

中村・吉川先生の話がおもしろかった。今度はもうちょっと段取りよくして下さいね。

もう少し、プログラムを少なくし、時間をとってもう少し事例にもとづいて話をして頂いた方が良く感じる。又、質問の時間もほしいですね。

中村講師の私見が参考になった。

講習内容で、水の備蓄が最低でも3日との事でしたが、本市の場合、基盤となる道路及び鉄道、港等のライフラインが使用出来ない状態となると思う。3日でライフラインが復旧可能と判断出来ませんが、最低備蓄日数は、もっと多く表現した方が良いのではないのでしょうか？

1. フォンフォンの復旧は被災地の祝候(東海・南海の場合1/1000)から東の想定よりはるかに遅れるのではないかと。1年間ぐらいかかるものもありそう。川の水を飲む事を考えよう。煮沸すれば大丈夫。

2. 三陸津波については吉村昭著「三陸津波」？が関東大震災については同著「関東大震災」が読みやすく大変良い。よく津波を誤解されている方がいます。波高という言葉から波高になってくるものと考えているようですが、波高1m以下の場合には波頭とならず、満潮のような感じで川が逆流して行きます。ちなみに昭和南海地震による浦戸湾内(鏡川河口, 国分川河口)では60~80cmでした。次期は同地点で1.5~1.8m(県海上保安庁)となります。高知市街地の場合、津波高と沈下量がほとんど同量です。3~4mとなります。液状化発生する可能性のある高知市内で耐震診断士が地下への免震設備を設置をすすめています。非常識ではないのでしょうか。軟弱というより劣悪な地域に多くの地下貯水槽を設置していますが、液状化等で沈下が発生して役立たないのではないかと。又、沈下より滞水が予想される地域内にも多く、浸水すれば役立つかない。

(株)相愛中村さんよりグッドな直前予知(24時間以内)と思いますが。今までの東海・南海地震の知識による。

1. 東海・南海地震はペアで発生。

2. 東海の大発が多い。次期も東海の発生確率が高く、東海先発の可能性大。

3. 東海の規模により時間的原則性あり。大規模宝永はほぼ同時。中規模安政は32時間後、小規模昭和2年。今の規模設定は県安政 国宝永。

以上の事から、24時間前直前予知は十分可能。

2018年に地震保険に入るのは早いのではないのでしょうか。山本武美氏の説によっているようですが、基本的に1600年(江戸時代)以前の史料については大変少なくなり、この事は地震だけではなく全ての分野で同じです。その理由として1. 明応・慶長地震間は戦国時代等戦乱期であり、史料の多くが失われている事。2. 識字率が低かった筈です。その為約100年前後で発生している南海・東海地震史料が失われている事は歴史家等の常識です。それゆえすべて200年以上となっております。

5
7
才
の
一
般
参
加
者
の
自
由
意
見